

就学援助制度の拡充を

中上さち子議員が要望

就学援助は、経済的に困難な家庭の子どもに対し援助する制度です。経済悪化で貧困層が増えるなか、子育て支援として制度の拡充を求めました。



【質問】平成23年度から、「持家」世帯に対し、認定基準額を引き下げる就学援助制度の改悪が行なわれた。その影響について尋ねる。

【答弁】前年度と比較した認定状況は、小学校で47名の減、中学校で9名の増加、全体で38名の減である。認定率は15%で前年比0.4%の減となっている。

【質問】経済悪化で貧困率は上昇している。過去からの推移をみても認定率は上がるはずであるが、改悪の影響が考えられる。

憲法26条では「義務教育は無償」とうたっている。認定基準の拡充こそすべきでは。

【答弁】認定基準の所得額は、生活保護基準に準ずる程度としている。児童生徒が義務教育を円滑に受けられるよう配慮している。拡充の考えはない。



【要望】就学援助は、自治体の裁量で認定方法が決められる。摂津市の認定基準額は生保基準の1.4倍となっている。低所得層への子育て支援として、認定基準の引き上げを強く要望する。

また、平成22年度から就学援助費の交付金が増額され、「クラブ活動費」「生徒会費」「PTA会費」が援助項目に追加された。早急に3項目の追加を求める。

■平成24年度就学援助費認定所得基準額表

世帯の人数	借家の世帯	持家の世帯
2人	2,213,780円	1,553,780円
3人	2,752,300円	2,092,300円
4人	3,011,518円	2,351,518円
5人	3,541,198円	2,881,198円
6人	3,933,402円	3,273,402円
7人	4,457,606円	3,665,606円

以下、世帯の人数が1人増加することに、380,000円を加算

■認定率の推移（小・中学校）

平成16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年(2月末)
11.9%	12.9%	13.3%	13.4%	13.1%	15.3%	15.4%	15.0%

【表1】特定検診の基本項目（国基準）

- 問診 ●基本計測（身長・体重・腹囲・BMI）
- 診察 ●血圧測定 ●尿検査（尿糖、尿蛋白）
- 血液検査 脂質検査（中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール）
- 血糖検査（空腹時血糖、HbA1c）
- 肝機能検査（GOT、GPT、γ-GTP）

*以下は、医師が必要と判断した場合のみ実施
○心電図検査 ○眼底検査
○貧血検査（赤血球、血色素、ヘマトクリット）

都市環境福祉常任委員会 特定検診の検査項目の充実を

さらがいふみ議員が要望

特定検診は、国民健康保険に加入している40〜74歳の人を対象に年1回、生活習慣病の予防を目的として、メタボリックシンドロームに着目した検診・保健指導を行うものです。

多くの市町村では、国基準の検査項目【表1】に加えて、市独自で検査項目を追加して実施しています



また、費用も無料で実施している市町村が増えています。

交野市では、検査項目は国基準の基本項目のみで、市民から、「検査項目を増やしてほしい」「費用も無料にしてほしい」と要望が出されています。

【表2】市独自で追加している特定検診の項目（平成23年度）

	追加の検査項目	費用負担
枚方市	尿検査(尿潜血)、血液検査(尿酸・血清クレアチニン・赤血球・血色素量・ヘマトクリット)	無料
寝屋川市	尿検査(尿潜血)、血液検査(尿酸・血清クレアチニン・白血球・赤血球・血色素量・ヘマトクリット)	700円
門真市	尿検査(尿潜血)、血液検査(尿酸窒素・血清クレアチニン・赤血球・血色素量・ヘマトクリット)、心電図	無料
守口市	血液検査(尿酸・血清クレアチニン・総コレステロール・赤血球・血色素量・ヘマトクリット・血清アルブミン・血小板・EGFR)、心電図	無料
交野市	基本項目(国基準)のみ	500円
大東市	基本項目(国基準)のみ	700円
四条畷市	基本項目(国基準)のみ	700円

日本共産党のさらがいふみ議員が、「以前から検査項目の充実を要望しているが、検討の状況はどうか」と質問したところ、市は、「腎機能の検査(尿酸・クレアチニン)や心電図の検査を充実させることが好ましいと考えているが、国民健康保険の財政状況もふまえて検討していきたい」と答弁しました。

交野市の特定検診の受診率は23.9%(平成22年度)と低く、検査内容の充実が求められています。